



「くらやみ祭」だけじゃない！ 伝えよう・広げよう・府中の魅力

あなたは府中をどのように伝えますか？

東京オリンピック・パラリンピックを機会に府中を訪れる親せきや友人。あなたは府中の魅力をどのように伝えますか？ 武蔵国の中心としての歴史、くらやみ祭に代表される伝統文化、昨年盛り上がった「ラグビーの街・府中」など、話の種は様々ありますね。この機にいろいろな魅力を調べ学んで、広く伝えていきましょう！



1. 伝えよう！府中の魅力



2. 伝統文化をつなぐ取組み



3. 学びを楽しむ・学びを支える



4. 心ちゅう東西南北

● 表紙写真 ●
くらやみ祭の万灯大会

こうして学ぼう！調べよう！

◆「歴史は学ぶものではなく旅するものです」

どこかで聞いたセリフですが、武蔵国の中心としての歴史を知るなら「市内観光ミニツアー」がお勧め。毎週木曜日と毎月第一土曜日の午前10時から約2時間の街歩きで、観光ボランティアガイドが無料で案内してくれます。起点は大國魂神社交番横の府中市観光情報センター。大國魂神社や中世の府中を詳しく知るには手軽に参加できて、往時の事がよくわかります。

◆歴史や郷土資料に関する質問をしよう！

古代国府を中心とした市の歴史や文化に関して詳しく知るなら「ふるさと府中歴史館」の国府資料展示室（1階）がお勧め。遺跡の発掘調査の成果が分かり易く展示されています。歴史館は大國魂神社の境内にあり、くらやみ祭の映像紹介コーナーもあります。

2階の公文書史料室では、専門の職員が、府中の歴史や郷土資料に関する質問に丁寧に答えてくれます。また「100年前の今日の新聞コーナー」では100年前の同月同日付の新聞を日替わりで展示しています。

◆ジオラマ展示で「へ～、そうなんだ！」と納得

古代から現代までの府中の歴史や伝統文化を学んでみたいなら「郷土の森博物館」がお勧めです。

ちょっと遠いような感じがしますが、ちゅうバスで行けば、分倍河原駅から数分。歩いて行っても20分位の道のりです。府中駅発のちゅうバスもあります。

博物館には府中の歴史や伝統文化、宿場町府中のジオラマなど楽しい展示が満載で、1日中いても飽きません。

◆ビジュアル版府中市史、分かり易くお土産にも！

府中の歴史を6カ国語で紹介している「武蔵府中 まちの歴史物語」（府中市刊）は、時代の特徴がよくわかるイラストや写真が多く載っていて、古代～近現代までの歴史を手軽に知ることのできる冊子です。中でも、現在の地形に古代、中世、近世、近代の道を重ねた地図は一見の価値あり！1冊500円で頒布中。海外土産にも最適です。



伝統をつなぐ取り組み(1)

くらやみ祭を盛り上げる「萬燈大会」

もうすぐ5月、毎年恒例のくらやみ祭の季節がやってきます。神輿渡御がメインですが、一連の行事のなかで、今回表紙で取り上げた「萬燈(万灯)大会」も人気です。そこで、この大会を主催する大國魂神社青年大祭委員会の滝島文一会長に、詳しい話をお聞きしました。



昭和54年から始まったこの大会も、今年で41回目になります。13の各町会の青年会(加盟団体)に関連2団体を加えた計15団体が参加し、大國魂神社境内の神楽殿前で華やかに繰り広げられます。

例年5月4日の12時30分に開始する対抗演技(競演)は、持ち時間2分で、高さ約3m、重さ約50kgの万灯を、一人の演者がいかにバランスよく振り回すか、その力と技を競います。そして大祭委員長、宮司、府中市長を含めた審査員が、万灯の出来栄え10点、振り方10点の配点で判定し、1位から15位までの順位を決めていきます。演技は、前年の1位から、2位、3位…という順で行うので、印象度があるためか連続優勝はなかなか難しく、3連覇が最高だそうです。

審査が終わると、万灯が、けやき並木のパレードへと移っていき、沿道の人たちにも披露します。その後、順位が発表され、優勝のコールは最後なのでみんな大盛り上がりします。

万灯の製作期間はおよそ



昨年の大会ポスター



写真(左から)花づくり/花つけ/組み立て

2~3か月を要しますが、16才以上の各町会青年会が見栄えを考えて設計図を作り、少しずつ進めていきます。万灯は、花の色も自由、重さの制限も無いとのことですので、工夫を凝らしていかに良く見せるかが、一層大切なことかも知れません。今年はオリンピックの年であり、どんな万灯が出現するかが楽しみです。

会長のお話で初めて知ったのですが、万灯は演技の当日に組立て、パレードなど行事を終えたら、その日の内に解体するそうです。

この日まで仕事や学業の合間を縫って時間をかけ製作に関わってきた女性会員や青年会員にとっては、5月4日の萬燈大会は、丹精こめた万灯を神様や市民の前に披露し、みんなで盛り上がる、大変貴重な一日だったのです。

(記: 渡邊繁雄)

伝統をつなぐ取り組み(2)

武蔵国府太鼓・府中囃子の振興

◆武蔵国府太鼓

武蔵国府太鼓(むさしこくふだいこ)は、昭和57年、府中市の新たな郷土芸能を創りたいという願いから、市民参加により府中市の歴史や文化、美しい自然を題材に、『乱れ打ち』『府中勇み駒』『多摩川流れ打ち』『分倍河原合戦太鼓』『くらやみ太鼓』の5曲が創作されました。

府中市では武蔵国府太鼓の伝承普及を行なっていくため、後継者の育成をしています。

◆府中囃子

府中囃子は、長い歴史と伝統を持つふるさと府中の郷土芸能です。

府中囃子には、目黒流と船橋流の二つの流派があり、大國魂神社を中心にして西側が目黒流、東側が船橋流に分かれています。調子は、目黒流の賑やかさに対して船橋流の優雅さと、それぞれに特徴があります。

府中囃子の伝承普及は、昭和41年に結成された「府中囃子保存会」が行っています。



学びを楽しむ・学びを支える その①

野外活動体験が子どもの生きる力になる！

「ボーイスカウト府中第6団」団委員長 上山公子さん

ご自分のお子さんが小さな時からボーイスカウトの活動のお世話を始め、長年続けておられる上山さん。こどもたちを見守るその思いをお伺いしました。インタビューの後半には、お仲間の丹羽さん、関田さんにも加わってもらいました。



私が、ボーイスカウトの活動に関わりましたのは、息子を入団させた時で、29年前になります。

家の中で過ごすことが多かった息子に、もっと外に出て、年齢の違う子供たちと交流を持つことで社会性を身につけたり仲間作りをして欲しいとの思いから、ボーイスカウトの活動に興味を持ったことが始まりでした。

今から思えば、入団させて本当に良かったなと思います。野外活動は、自然が相手ですから思うようにならないことだらけですが、仲間たちと協力していく事でいろいろな学びが得られたと思います。

私も最初はアウトドアのことを何も知らないわけで、キャンプを見ていて「楽しそう」というくらい

の思いでした。でも、実際に子供たちと同じ体験をして、経験を積んでいくこ



とは、子どもたちと同じ目線で感じ取れる得難い体験でした。男の子と母親ってその距離感がなかなか難しいところもあるのですが、こうして共通の話題が生まれることでどんどん近くなっていくことが、本当に嬉しかったですね。

特にキャンプでは、森、川に囲まれた場所で山歩き、川遊び等をし、食事作りでは毎食食べられる量を考えみんなで調理して、ご飯をいただきます。キャンプファイヤーでは歌や寸劇で盛り上がり、帰り仕度では来た時と同じように片付け掃除をし、キャンプ期間の無事を感謝して帰途につきます。

こうした体験が積み重なって、少々のことでも動じない肝が座ったというか、臨機応変が身についたように思います。それに、自然に対する畏怖の念なんかも生まれてくるし、文明のありがたさもわかってくる。ここで得たことは、生活の中でさまざま役にたっているだろうと思っています。

平成22年に団委員長を受けまして、団のやりくりが出来るものか非常に身が引き締まる思いでしたが、関係の皆さんが大変協力的に応援いただき、団を運営していく上では苦勞と感ずることはありません。

子どもたちの成長を見守っていくことが楽しく、協力してスカウト活動を盛り上げていく、こんな雰囲気大好きで、今も喜んで役に当たっています。

第6団は武蔵国府八幡宮の境内に活動拠点のクラブハウスを構えています。府中の中心地にも近いながら、周囲を林に囲まれた自然に恵まれた環境です。この拠点より、くらやみ祭をはじめとして地域の様々な活動に関わらせていただき、深く地域に根付いて、ボーイスカウトが果たしている役割を実感しています。

近年の自然災害は規模が大きく、生活に直接影響が出ることも少なくありません。「そなえよつねに」を理念として掲げるボーイスカウトでは、体験を通して生き抜くための知識や技能を楽しみながら習得していくことができます。こうした経験が、突然訪れる非日常に対処する知識、心構え、人とのつながりなどに活かされ、苦しい時にこそ自分の支えになると思います。

スカウト保護者に限らず、成人された方の参加も多く、幅広い年代、職種、業種の方々が交流されています。少しでも気になったその時がはじめ時。年齢や経験などを気にせず、一度、活動を体験しにいらしてください。（記：西谷信昭）



丹羽さん 保護者同士のつながりは、何か地域をまたいだご近所づきあひみたいなものですね。若いお母さん方の相談にのってあげたり、あれやこれやと話しをする場所があるということはありがたいです。

それに、子供たちに接しているといろいろ新しいこと知ることができて、脳を上書きできますし。



関田さん

息子がキャンプから家に帰ってくると、蛇口をひねるとざっと水が出る、ガスでパッと火がつく、そんなことに感動して、すごいね、ありがたいねって言うんです。それと、食事でも、自分より小さい子がいれば、先に食べさせてあげるなど、社会的なルールとかマナーが身につく、自然に躰ができたとも思いますね。食べ物の好き嫌いもなくなっていきました。

<取材後記> 皆さんのお話から、子供と共に成長される様子が見て取れました。頼もしく感じながら聴いていると、学校教育の中で、ボーイスカウトのような野外活動を取り入れてほしいものだと話になり、大いに盛り上がりました。

便利グッズに囲まれた現代社会にあって、防災・忍耐・協働を学ぶ意味でも有意義な経験になるだろうと思います。（山田詩子）

今回の作品巡りは、集合しやすい府中駅を起点として、市役所、下河原緑道から新田川緑道、郷土の森公園までを、アートとの出会いを求めて歩いてみました。帰りには分倍河原駅経由府中駅までちゅうバスが利用できます。(渡辺、奥野、鈴木、井口、柴田、中井、山田)



- 1・2** 集合してまず最初、府中駅西側に降りると、高架下に「大地より」という作品が、ケヤキ並木の通りを挟んで2基そびえ立っていました。府中市役所に向かう前に、大国魂神社手前の、神社に向かって左側フォーリス前に、大きめの立像を発見、「源義家公」の像でした。

作品 1 大地より (作) 湯村 光

府中駅西側高架下に波形の石の柱が大国魂神社に向かって左右にそびえ立っている。何か意味があるとは思いますがケヤキの木に競っているように見えました。

作品 2 源義家公之像

(作) 喜多敏勝

大国魂神社に何か貢献したのか？神社に向かって堂々と立っています。調べてみるのも歴史が分かかっておもしろいかもしれません。



- 3・4** 市役所の東玄関に到着。玄関右側と駐輪場手前に近代芸術を思わせる「FOUNTAIN SCULPTURE」と親子の「友愛の像」の2作品がありました。西玄関に設置されていた作品「CONNECTION」(最上段の写真)は、新庁舎建設のため別の場所に移設し保管中だそうです。

作品 3 FOUNTAIN SCULPTURE

(作) 志水晴児

キューブの形で、水の流れるような表現と思われませんが、行った時には流れてはいませんでした。

作品 4 友愛の像

(作) 西川早春

府中市の平和に対する思いが表現されている作品に見えました。



- 5・6** 旧甲州街道に戻り、下河原緑道を目指します。ここまでにほぼ 30 分経過。緑道入口を入るとすぐ右手に「鳥」の石造がみえました。しかし、鳥の印象はあまり感じられません。気を取り直して緑道を多摩川に向かって南下すると、まっすぐな道に分岐が見えてくる、以前東京競馬場の駅につながっていた鉄道の名残です。やがて中央高速の下を通り左手にビール工場の積荷が見えます。工場の裏の風景です。そんな風景を見ている内に、「そよ風」の少女像が見えました。

作品 5 鳥 (作) 日高頼子

市の鳥・ひばりではないようですが…。何気にとまっているのが微笑ましいですね。

作品 6 そよ風 (作) 高橋 剛

多摩川の風を感じているような爽やかな少女像。緑道を歩いてみたくなります。



- 7** 出発から約1時間。やや疲れを感じたとき、郷土の森修景池が見えたところで、最後のアート「緑光燦舞」を鑑賞。一息ついた所で、郷土の森博物館の食堂で休憩をとり、やっとお茶に有りつきました。ことのついでに、公園に入ろうということに。ロウバイがまだ少し残っていて、これからの梅の花も見ることが出来ました。(記：渡邊)

作品 7 緑光燦舞 (作) 一色邦彦

人魚のような女性が、身につけている羽衣をはためかせ、飛んできた鳥と戯れているような楽しい像でした。

下河原緑道は真っすぐな一直線の道なのに驚かされました。これは明治43年に敷かれた東京砂利鉄道の跡地だそうです。なんだ明治の敷設だから直線に敷けたのか…。でもその跡地を府中市が自転車・歩行者専用の緑道として、しっかりと整備したことは素晴らしい！寿町3丁目の基点から南町4丁目の終点まで、市役所によれば3,513.5メートルだそうです。(記：鈴木禎治)

編集後記：何かを始める時、積極的に機会を求める時もありますが、ただついて行っただけでハマった…こんな体験は大なり小なりみんな持っていますね。3面でご紹介した上山さん、子供さんと野外活動をしているうちボーイスカウトの団員長(トップ)になってしまったという人です。堅苦しく「何かをしなれば」と意気込むのではなく「なんとなく」でもいいんだな、そんな勇気が湧いてきました。(西谷信昭)

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
ふちゅう生涯学習センター共同事業体

府中市生涯学習センター

〒183-0001 府中市浅間町1-7 Tel 042-336-5700

ホームページ：<http://fuchu.shogaigakushu.jp/>